

6月は、読書月間です。

# 身近なところに 1冊の本を！

～ 本となかよくなろう ～



芦屋市は、「ブック・ワーム(本の虫)芦屋っ子」の育成を目指し、平成20年度から読書活動の推進を進めています。  
「身近なところに 1冊の本を！～本となかよくなろう～」  
学校園や家庭でも、読書について話題にしてはみていかがでしょうか。

芦屋市教育委員会

## ○ご家庭でもテレビを消して、家族で読書を楽しみましょう。

まずは、家で読書をする「家読（うちどく）」からスタートしましょう。親が子へ、子が親へ本の読み聞かせを行うことで、家庭の中に温かい雰囲気生まれます。

そして、同じ時間に互いが見える場所で家族の読書の時間を持ちましょう。また、同じ本を読み合ったり、好きな本を紹介しあったりしてみましょう。

## ○多くのすてきな本の中からいくつか紹介します。

### 幼児向け

#### 「わたしのワンピース」

作者 西巻 茅子

空から落ちてきた真白いきれでうさぎさんがワンピースを作りました。それを着て、お花畑を散歩すると、ワンピースがお花畑に！次々と素敵なことが起こります。“自分だったらどんなワンピースがいいかな・・・”と夢をふくらませてみるとさらに楽しいでしょう。

#### 「おまえ うまそうだな」

作者 宮西 達也

アンキロサウルスのあかちゃんの前にティラノサウルスが現れ、「おまえ、うまそうだな」と近付いていくと、アンキロサウルスは「お父さーん！」とティラノサウルスにしがみついてきました。とまどうティラノサウルス。ほのぼのとしたかわりの中に愛を感じるお話です。

### 「ぼちぼちいこか」

作者 マイク＝セイラー 絵 ロバート＝グロスマン 訳 今江 祥智

何とも愛らしいカバが主人公のお話です。茶目っ気たっぷりで、のんびりおっとり、とりあえずやってみようとしてチャレンジするさまが関西弁でいっそう引き立つかもしれません。ちっともうまくはいきませんが、それでもくじけない主人公に癒されることまちがいなし。「こちらでちょっとひとやすみ」ゆっくり自分を見つめる時間も大事だよ!! そんなメッセージが伝わってきます。

### 「ぼくを探しに (The Missing Piece)」

作者 シェル・シルヴァスタイン

「ぼく」が足りないかけらを探しに行くお話。英語の原作で読むのもおすすめです。

## 低学年向け

### 「ともだちや」

作者 内田 麟太郎 絵 降矢 なな

「え～ともだちやです。ともだちはいりませんか。」

1時間100円で友だちになってあげてくれることを思いつくキツネが主人公です。さみしい人に友だちになってあげよう～いいことしているつもりでのキツネです。友だちになるのにお金なんていりませんよね。でも、こんなことを大真面目に考えるキツネです。

この本を読んだみなさんは、いちばん友だちがほしかったのは誰か気付くはずですよ。

### 「マグノリアおじさん」

著者 クエンティン・ブレイク 訳 谷川 俊太郎

陽気なマグノリアおじさんのくつはいつもかたっぱし。くり返されることばのリズムが楽しいユーモアたっぷりの絵本です。

### 「へいわってすてきだね」

作者 安里 有里 絵 長谷川 義史

6月23日、沖縄の「慰霊の日」に行われる追悼式。そこで読まれた平和メッセージが絵本になっています。与那国島の小学校1年生が「へいわってなにかな」と自分なりに考えています。親子で我が家なりの“へいわ”を考えてみるのもいいかもしれませんね。

## 中学年向け

### 「1つぷのおこめ ～算数の昔話～」

著者 デミ 編集 さくまゆみこ

お米をひとりじめしてしまう意地悪な王様にラーニは30日間お米をくださいとたのみます。算数が好きになる楽しい絵本です。

### 「きみは、ダックス先生がきらいか」

作者 灰谷 健次郎

4年生になったリツコが、一番担任になってほしくないと思っていたダックス先生が担任になった。

しかし、月日がたつごとにちっとも先生らしくないと思っていたダックス先生の言動に、リツコたちは次第にひかれていきます。

### 「だいじょうぶだよ、ゾウさん」

作者 ローレンス・ブルギニョン 絵 ヴァレリー・ダール 訳 柳田 邦男

おさないネズミと年老いたゾウのお話です。ある日、「もうすぐ遠いゾウの国にいて、もうもどらない」とネズミにつげます。でも、ネズミには、それがなかなか受けいれられません。月日が経つにつれて、大きくなったネズミは、弱ってきたゾウの世話をいっしょうけんめいするうちに、ゾウの「死」を受け入れる準備ができるようになるのです。

## 高学年向け

### 「カラフル」

作者 森 絵都

死んだはずの「ぼく」の魂がなんと抽選に当たり、もう一度生まれ変わる再挑戦のチャンスを与えられ、一定の期間下界にいる誰かの体を借りて「修業」を行うお話。普段の日常は角度を変えて見てみるとまた違った一面を見せると気付かされる一冊です。

### 「星新一 ショートショートセレクションシリーズ」

作者 星 新一

1つのお話は数ページでとても短いのに、おもしろさがギュッと濃縮されています。朝の読書にもおすすめです。

### 「世界を動かした塩の物語」

作者 マーク＝カーランスキー 絵 S.D.シンドラー 訳 遠藤 育枝

人間は塩がなくては生きていけない。今はありふれた存在になった塩が、実は世界の歴史を動かしていたことがわかるよ！

### 「世界がもし100人の村だったら」

作者 池田 香代子

「世界を100人の村に縮小したら、どうなるか。」ということを中心に「〇人が～で、〇人が～」という形で分かりやすく世界のことを学べます。平和へのメッセージもあり、世界のことをすごく身近に感じることができます。

### 「心を整える」

作者 長谷部 誠

みんながよく知っているサッカー選手です。

自分の心と向き合う今だからこそぜひ読んでみてください。

### 「海のいのち」

作者 立松 和平

6年国語の教科書に載っている物語。いのちシリーズとして「山のいのち」「街のいのち」「田んぼのいのち」「川のいのち」「木のいのち」もあります。様々な命の形について考えさせられるシリーズです。“生き方”について、親子で語り合うのもいいかもしれません。

### 「金子みすゞ童謡集 わたしと小鳥とすずと」

作者 金子 みすゞ

日常生活で気が付かなかつたりわすれていたことについて、やさしい言葉で語りかけてくれます。特に「大漁」の詩を声に出して読んでみてください。

### 「なぜ戦争をするのか？ 六にんの男たち」

作者 デイビッド＝マッキー 訳 中村 こうぞう

平和を求めながらも戦いへの道を進む人間の姿。この世に、なぜ戦争がおこるのだろうか？どの学年でも、読んで考えさせられる絵本です。

## 中学生向け

「そして、バトンは渡された」

作者 瀬尾 まいこ

最高のしあわせに満ちた物語です。いろいろな家族の形があっいいんです。

「風をつかまえた少年 14歳だったぼくはたったひとりで風力発電をつくった」

作者 ウィリアム・カムリワンバ

アフリカのマラウイで2001年に起きた飢饉から14歳の少年が考動する実話。映画もおすすりめです。

「太陽の子」

作者 灰谷 健次郎

小学校6年生の主人公が沖縄での戦争に関わる事柄に向き合う中、たくさんのことを感じ、成長する物語です。

「新幹線お掃除の天使たち」

作者 遠藤 功

本物の真心

プロの仕事とは何か。心、あったまります。